タオの月（1997）

メディア 映画
ジャンル アクション　時代劇　ＳＦ
製作国　日本
色彩　Color
時間　96分
初公開日 1997/11/29

【解説】
　戦国の世、巨大な石でも両断にしてしまう一振りの剣があった。刃こぼれしてもたちどころに回復するその刀に恐怖した浅見忠興は、剣の出元を探るべく２名の配下を送り出した。様々な術を身につけた修験者・酔狂と、優れた剣の使い手・疾風である。そのころ３人の異形の者が天より降り立った。森の中で争いを繰り広げる異形の者たち。森に住む少女れんげは、傷ついた異形の者からタオを託される。やがて酔狂、疾風と行動を共にすることになったれんげだが、強大な術を己の野心のために使おうとする角行に捉えられてしまう。角行には酔狂の術も及ばない。果たして一行は、角行の野望を阻むことが出来るのか？　そして異形の者たちが探し求めるマカラガとは何なのか？
　雨宮慶太監督が放った待望のオリジナル新作は、時代劇に特撮技術をたっぷり盛り込んだ痛快作である。地球にやって来た異形の者には、雨宮作品ではお馴染み森山祐子が一人三役で挑戦、螢雪次朗も小心者の武器庫番で顔を出すなど、雨宮ファンが楽しめる作りになっている。ＣＧを使ったマカラガをはじめとする特撮技術の見所も多い。ただ雨宮監督はこの作品の製作に当たって『七人の侍』をかなり意識したと思われるが、それが今ひとつこなれていないのは残念なところだ。永島敏行が扮した皆のまとめ役となる気さくな坊主・酔狂は明らかに『七人の侍』で志村喬が演じた勘兵衛を模しており、阿部寛が扮した寡黙な剣の達人・疾風は宮口精二が演じた久蔵に当たるのだろうが、『七人の侍』でそれぞれの俳優が見せた存在感には及ばない。またロケ地の問題か、戦国の光景も荒々しさに欠け、白けている。そんな難点はあるものの、本作は題材の取り上げ方をはじめ冒険心に富んでおり、好感を抱かせる。
　なお本作は、短命に終わったシネマジャパネスクの一環として公開された。シネマジャパネスクは松竹が目指した新しい製作・興行体制で、多数の好企画と一癖ある映画作家と、作品ごとの柔軟な劇場編成とを組み合わせたものだ。シネマジャパネスクの名の下に送り出された作品が、どれも話題性・注目度で１ランク上をいっていたのには驚かされる。しかし興行的にはほとんどの作品が惨敗に近く、松竹の社長交代劇を経て、シネマジャパネスクは終焉に向かう。冒険的な企画の多かったシネマジャパネスクの中でも、特撮を前面に出したのは本作だけであることを考えると、本作が公開に漕ぎ着けたのは奇跡のような幸運だったのかもしれない。本作が、そしてシネマジャパネスクが、多くの映画ファンに心地よい興奮と日本映画への希望を与えたことは、ここに強調しておきたい。

【クレジット】

監督	雨宮慶太
製作	渡辺繁
プロデューサー	久保聡
	田口聖
脚本	田中徹
	松本肇
	雨宮慶太
キャラクターデザイン	雨宮慶太
撮影	木所寛
特殊メイク	中田彰輝
美術	井口昭彦

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。　Copyright (C) 2026 Stingray. All Rights Reserved.

衣装	竹田団吾		
	福田明		
編集	普嶋信一		
音響効果	斉藤昌利		
音楽	Ｂｕｄｄｙ－ＺＯＯ		
	太田浩一		
	木下伸司		
ビジュアルエフェクトスーパーバイザー	松本肇		
助監督	金子功		
出演	森山祐子		マリエン／アビラ／クズト（三役）
	阿部寛		疾風
	永島敏行		酔狂
	榎木孝明		角行
	螢雪次朗		武器庫番
	吉野紗香		れんげ
	谷啓		忠興
	井田州彦		門番
	佐々木俊宣		マカラガ
	ジーコ内山	Zeeko Uchiyama	泥丸
	舘正貴		山助
	津村和幸		ツムラ
	神威杏次		カムイ
	豊嶋稔		トヨシマ
	嶋田豪		シマダ
	丹野由之		タンノ
	栩野幸知		トチノ
	江幡高志		エバタ
	半田雅和		ハンダ
	小林勇治		コバヤシ
	松本肇		従者
	小松沢陽一		側近
	江並直美		側近
	川村千里		デプンの女神

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2026 Stingray. All Rights Reserved.